

能代市バスケの街づくり推進計画の点検及び推進に関する報告書（写）

能代市バスケの街づくり推進委員会は、「能代市バスケの街づくり推進計画」の5～6年目の点検・推進を市と協働で行ってきました。その結果をまとめ、別紙資料を添えて報告します。

1 2年間の委員会の活動について

3～4年目の実績や課題を踏まえ、バスケミュージアムの機能強化、街づくりへの参加や意見交換会の開催、情報集約等を行った。

（1）バスケミュージアムの機能強化と対外的なPR強化について

バスケミュージアムの機能強化及び対外的なPR強化のため、HPのリニューアル（情報の整理、多言語化）を行った。

（2）バスケの街づくりへの協力体制について

①意見交換会の開催

平成29年11月と平成30年1月の2回、各種団体等とのコラボ企画（〇〇×バスケ）の可能性やボランティア不足等の相互の課題解決、バスケミュージアムの機能強化等について意見交換会を開催した。

【主な参加団体】

- ・能代商工会議所
- ・志考会
- ・能代市柳町商店街振興組合
- ・バスケの街づくり推進委員会 等



②街づくりへの参加

「秋ビア（能代観光協会主催）」とのコラボ企画として、会場である能代市役所敷地内にシュートコーナーを設置した。



（3）平成29年メモリアルイベント

平成29年6月10日、11日に、能代市総合体育館及び旧料亭金勇でメモリアルイベントが開催された。推進委員会では、同イベントで来場者アンケートを実施した。

※6/10 来場者 1,856名 うちアンケート回収 514名

Q なぜこのイベントに参加されようと思ったのか

- 36.0% ■バスケが好きだから
- 33.8% ■工業バスケ部を応援しているから
- 10.3% ■好きな選手がいたから
- 5.4% ■友人・家族に誘われた
- 4.9% ■イベントが魅力的だったから
- 9.6% ■その他（少数意見）

Q バスケの街能代に期待することは

- 22.9% ■全国唯一の取組
- 18.6% ■バスケの街のPR
- 12.7% ■工業の応援・支援
- 12.7% ■現状維持、取組の継続
- 10.2% ■幅広い年代を対象としたイベント
- 10.2% ■競技人口増・指導者の確保
- 12.7% ■その他（少数意見）

2 街づくりの指標について

3～4年目同様に推進計画のゴールに近づいていることは確認できた。今後は10年計画の7年目の推進状況の点検に加え、これまでの成果の検証、さらなる取組の検討が必要である。また、指標の目標値については、推移をみながら、引き続き委員会で検討していくこととした。

3 2年間の総括と今後の方向性

平成29年度に開催した能代工業高校バスケット部メモリアルイベント等のバスケットイベントや平成28年に締結した秋田ノーザンハピネッツとの連携・協力に関する協定等により、競技関係者はもちろんのこと、競技関係者以外の市民等においてもバスケットに触れる機会やバスケットに関連する取組等が生まれてきている。しかしながら、目標とする指標の数値などから見ても、さらに市民の関心を高める必要がある。

そのため、今後も各種イベントとのコラボ企画や既に行っているバスケットイベントの充実や拡大を図るとともに、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿誘致等も加えながら、10年計画において長期に設定された取組の実現に向けて推進していく必要がある。

(1) 対外的なPR強化について

注目度を高めるためには、能代工業高校バスケット部や秋田ノーザンハピネッツを地域資源と捉えて積極的な事業展開を行うとともに、バスケットロードフェスティバルの拡大等、市外から人を呼び込めるようなインパクトのある施策が必要である。また、インバウンド対応が可能なコンテンツであるため、引き続き、多言語での情報発信のほか、街なかでバスケットを感じられる景観づくりを推進しながら、市民の機運も高めていく必要がある。

(2) バスケットミュージアムの機能強化について

以前から、狭い、ボリュームが少ないなどの声があるほか、現施設では展示しきれない寄贈品が数多くあることから、拠点となるミュージアムの拡大が望まれる。そのため、今後は移転とともに、カフェ機能やグッズ販売の充実等、民間活力を活用した委託化等も含め、機能強化について関係団体等との連携を深めながら重点的に検討していく必要がある。

(3) バスケットの街づくりへの協力体制について

各種イベントのボランティア不足等の課題解決等、さらなる人的ネットワークの形成に向けて、これまで以上に関係団体等との連携を強めるほか、定期的な意見交換会を開催し、ボランティアの組織化等の仕組みづくりなどについて検討が必要である。また、市民参加の推進を図るためにも、能代工業高校バスケット部とともに「バスケットの街能代」のシンボルとなれるようなクラブチームの設立についても検討する必要がある。

(4) 競技力の向上について

能代工業高校や秋田ノーザンハピネッツへの支援拡大を図るとともに、地元の子供たちが工業高校やノーザンハピネッツで活躍できるように、クリニックの開催や交流を通してトップレベルに触れられる機会を確保する必要がある。

平成30年 3月12日

能代市長 齊藤 滋 宣 様

能代市バスケットの街づくり推進委員会
委員長 石井 一 生